

平成 2 1 年 9 月の解説（府県天気予報）

【 9 月の天候状況 】

上旬と中旬は北日本から西日本は、移動性高気圧に覆われて晴れる日が多く降水量は少なくなりました。しかし、上旬は北日本から東日本にかけて、中旬は北日本から西日本にかけて上空に寒気が入ったため低温となりました。一方、南西諸島では太平洋高気圧に覆われて高温となりました。また 8 日と 19 日に日本の南を台風が通過しましたが、大きな被害はありませんでした。下旬は全国的に天気が周期的に変わりましたが、引き続き降水量は少なくなりました。また太平洋高気圧が日本付近で勢力を強めたため、全国的に高温となりました。しかし旬末は前線が東・西日本の太平洋側に停滞したため、これらの地方では天気がぐずつき、一部で大雨となりました。

月を通しての日照時間は、東・西日本では平年よりかなり多くなり、北日本と南西諸島では多くなりました。降水量は全国的に平年よりかなり少なく、全気象官署 154 地点のうち 19 地点で 9 月の月降水量の最少記録を更新しました。気温は南西諸島で平年よりかなり高くなり、7 地点で 9 月の平均気温の最高記録を更新しました。一方、北日本では平年より低くなりました。

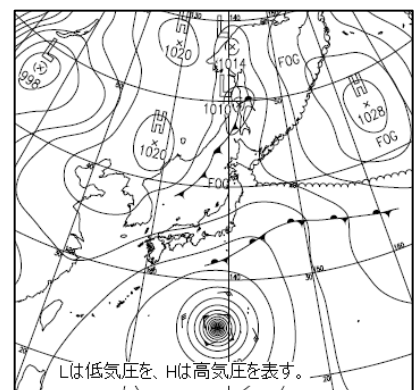
【 9 月の検証結果 】

17 時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報が 86% で例年（注）より 5 ポイント高く、明後日予報が 84% で例年より 7 ポイント高くなりました。地方毎の適中率では、明日予報はほぼ全国的に高くなり、東北地方から九州北部かけて例年より 5 から 14 ポイント高くなりました。明後日予報もほぼ全国的に高くなり、東北地方から九州北部かけて例年より 6 から 16 ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は全国的に例年に比べて 0.2 から 0.7 小さく、全国平均は 0.4 小さい 1.4 でした。また、最低気温の予報誤差は北日本から近畿・中国地方にかけて例年より 0.2 前後小さく、全国平均は例年より 0.1 小さい 1.2 でした。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【 9 月の天気予報から 】

9 月 18 日 21 時の予想天気図（第 1 図）では伊豆諸島付近に停滞前線があって、関東地方南部では地上付近に東よりの湿った空気が流れ込むこと、また夕方から夜にかけては上空の気圧の谷が接近する予想になっており、上空へも湿った空気が流れ込むことから弱いながら雨が降ると考えました。このため、前日 17 時発表の 18 日の東京地方の天気予報では、「曇り夕方一時雨」で 12 時から 18 時の降水確率を



第 1 図 17 日 21 時をもとにした 18 日 21 時の予想地上天気図

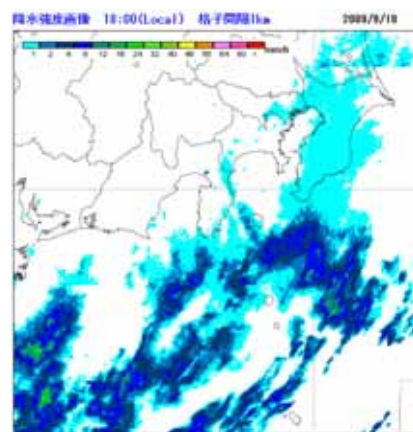
50 パーセントとしました。

18 日 5 時の予報を発表する段階では、すでに西日本に上空の気圧の谷が接近しており、厚い上層雲がかかっていた。しかしその下の中層（高度 3000m から 5000m 付近）には雲がなく広範囲で乾燥している事を最新の高層観測データ等の実況で確認していました。このため、この上空の気圧の谷が関東地方に接近する夕方以降においても、西日本と同様な状況になって数値予報で予想しているほど湿った空気が流れ込むことはないと考えました。さらに地上付近で東よりの湿った空気の流れ込む地域は、前日の数値予報で予想していたよりも狭まり、関東地方南部の房総半島を中心とした地域になっていました。このため、東京地方の 18 日の天気予報を「晴れ昼前から曇り 所により夕方から夜のはじめ頃雨」として、雨が降る地域が散発的になる予報表現にし、12 時から 18 時の降水確率を 20 パーセントにしました。

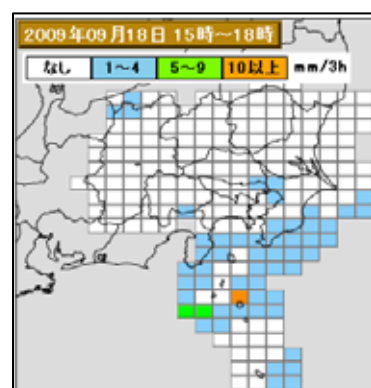
18 日当日の天気は、夕方から夜にかけて、房総半島から東京地方の一部で弱い雨が降りました（第 2 図）。

第 3 図は 18 日 5 時発表の 15 時～18 時の 20 km 四方の天気分布予報（要素：降水量）です。相模灘から房総半島南部にまとまった降水域を、千葉県北西部や東京 23 区の一部にも弱い降水域を予想していましたが、実況もほぼ天気分布予報のような経過となりました。

天気分布予報では、降水域の広がりや強さも確認できますので、文章形式の天気予報と合わせてご利用下さい。天気分布予報は気象庁ホームページ（ホーム＞防災気象情報＞天気分布予報）で見ることができます。



第 2 図 18 日 18 時のレーダー降水強度図



第 3 図 18 日 5 時発表・18 日夕方を対象とした天気分布予報(要素・降水量)

【11月の天気予報の利用にあたって】

晩秋になると、冬型の気圧配置になることが多くなって、日本海側を中心にしぐれ模様になり、北日本では雪やみぞれが降るようになります。降水が雨となるかみぞれや雪となるかはその時の地上・上空の気温や湿度などの状況によって複雑に変化します。降り始めは雨でも途中からみぞれや雪に変わったり、逆にみぞれや雪が途中から雨に変わったりもします。

雪が降れば視界が悪くなり、積もれば路面が滑りやすくなるなど、雪は雨に比べて降水量が少なくても人々の生活や交通に大きな障害となる場合があります。天気予報や雪に関する気象情報を上手に利用して雪への備えを万全にして下さい。